

【全体概要】

安納いもはしっかりとした食感と甘さが消費者に認められ、全国的な人気もあり現在では種子島で約600ha栽培され、さとうきびに次ぐ基幹品目となっている。しかし、安納いもと同様に甘さがあるさつまいもが開発され、他産地での生産が拡大している。これまで以上に品質（色、形）、食味（Brix,しっとり感）の揃った美味しい安納いもを安定的に供給していくことが必要であり、そのための技術を確立し、種子島安納いものブランド化を推進する。

新品種・新技術等の概要

○技術名：「安納いもの生産・品質安定技術」の確立

1 実証内容

- ①本ぽ型トンネル育苗技術
 - ・育苗法の違いによる生育・収量の検討
 - ・本ぽ育苗後のいもの品質の検討
- ②高温障害回避技術
 - ・マルチの違いによる収量・品質の検討
- ③育苗期の天敵利用技術の導入
 - ・アブラムシ、コナジラミ等の防除技術確立



本ぽ型トンネル育苗の様子

表 本ぽ型トンネル育苗とハウス育苗の比較

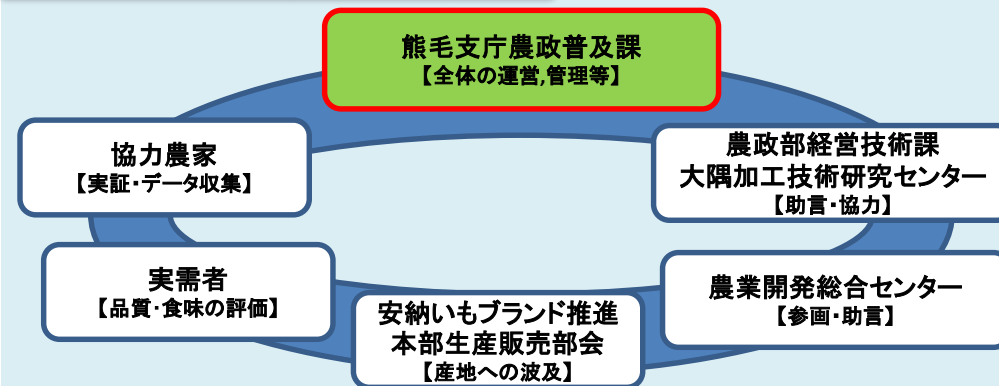
項目	本ぽ型トンネル育苗	ハウス育苗
定植日	4月30日	4月27日
初期生育(14日間)	5.3葉	4.0葉
1株当たりいも個数	5.1個	6.7個
M以上の割合	92%	78%
10a当たり収量	4,541kg(対ハウス121%)	3,749kg
10a当たり生産額	790,010円(対ハウス115%)	686,823円
収穫直後のBrix	10.0	10.1
収穫直後の硬度	7.5	9.6

*収穫日：10月17日

主な取組内容

- 新技術等の特性検討
 - ・ 特性把握のための実証ほ設置（3技術×各1箇所）
 - ・ 新技術特性把握のための実証ほの設計内容、実証実績の検討
 - ・ 実証ほ場で現地検討、育苗研修会の開催
- 栽培・技術資料の作成
 - ・ 実証技術のうち、本ぽ型トンネル育苗技術で得られた成果を技術資料の作成と生産者への配布
- 試験研究機関での新技術情報収集活動
- 技術と産地・実需者とのマッチング活動
 - ・ 栽培講習会で情報提供、カウンセリング等で新技術の提案

事業実施の体制図



課題と今後の対応

- 1年目の取組（実績）
 - ・ 本ぽ型トンネル育苗技術の実証
 - ⇒初期生育が良く、収量も通常より2割増収。
 - バイオ苗の効率的な増殖が可能。
 - 慣行栽培のいもと同等以上の品質。
 - ・ マルチの違いによる収量・品質の検討
 - ⇒白黒wマルチが、他のマルチ等より最も増収
 - 生分解性マルチは、黒マルチより経済性が高い
 - ・ 育苗ハウスで利用できる天敵涵養植物6品目の選定。
 - ・ 土着天敵の確認（タバコカスミカメ、ヒラタアブ）。
- 2年目の取組（計画）
 - ・ 本ぽ型トンネル育苗のマニュアル作成と普及拡大。
 - ・ 年次変動を考慮した再実証（高温障害回避技術）。
 - ・ 土着天敵の活用。